さがみはら産業創造センター 編集・発行

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 ― 地域版 ―

発行 No. 27

発行日 : 2013年 11月1日(金)

地域企業紹介 その 27

日本化工機材株式会社

角紙管で世界を目指す!

包装材の製造販売、紙管を使った商品開発などを手がける日本化工機材株式会社の大澤浩一郎社長を相模原市淵野辺にある本社工場に訪ねました。同社は父親である先代が乾燥剤「シリカゲル」の加工・販売を行う会社として昭和３７年に町田市で創業し、淵野辺には昭和４５年に移転している。創業間もなくは乾燥剤が主体だったがスピーカーの梱包を手始めに業容を広げ現在は売上の６０％は包装材関連、角紙管２５％、乾燥剤１５％となっている。

包装といっても奥は深く、顧客からの依頼を受け、落下試験などを行いながら内容物が輸送中に衝撃を受けても破損しないよう緩衝材や梱包材の形や配置をデザインし、それを製造し、顧客に納入している。「いかにコンパクトで、落としても壊れないように梱包するか」そこに多くのノウハウが詰まっている。包装するものはヘルスケア商品、医療機器、冷凍冷蔵庫、自販機、自動車部品など様々だ。

同社は現在、国内に子会社を２社、マレーシアに１社、タイに２社、中国天津に１社の現地法人を持っている。マレーシアやタイの現地法人の仕事はヨーロッパに自動車部品などを輸出する日系企業からの依頼がほとんどだそうだ。部品の輸送に細心の注意を払う日系企業にとっては欠かせないパートナーとなっている。日本の強みは「高い品質」と世界が評価しているが、単に製造業だけではなくこうした多くの企業がそれを支えているのだと実感する。同業の中でいち早く海外展開したこともあり国内製造業の海外移転に伴う売上の減少を海外事業がカバーしている。「今後ますます海外での仕事が増えていき間もなく海外比率が過半を超える。海外で規模を拡大し、日本では付加価値の高いものづくりに特化していきたい。」と大澤社長は言う。

(2面につづく)

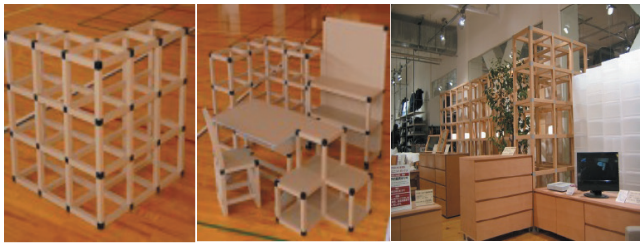
日本化工機材株式会社
代表取締役社長　大澤　浩一郎
所在地　：相模原市中央区淵野辺1-20-8
従業員数：98名　資本金：6,875万円
売上高　：40億円（平成24年度 連結）
事業内容：化成品の製造、販売とその応用品販売
紙製品の製造、販売とその製品の製造プラントの設計製作
紙製品とその応用商品開発及び包装設計の受託

（表面からつづく）

力を入れているのが「角紙管」と呼ぶ紙で作られた角状の筒を使った商品開発。同社は国内唯一の角紙管専業メーカーとして世界初のねじれがでない角紙管「リニア角紙管」の開発に成功している。無印良品を展開する株式会社良品計画とのつきあいは長くラック、椅子などの商品を共同開発している。また、コンビニの商品ラックや証書入れなど様々な商品開発にも取り組んでいる。現在は需要が拡大しているリフォーム市場向けにドアなど建具の開発を建築デザイナーとともに行っている。

大澤社長は高校、大学と山岳部に所属し、北アルプスや八ヶ岳を駆け巡っていた山男。卒業後は好きな飲食関係に進むが父親の勧めもあり1976年に日本化工機材に入社する。営業や国内子会社への出向を経て1999年に43才で代表取締役に就任している。

就任以来、マレーシア、タイ、中国天津と海外拠点の立上に奔走した大澤社長は「将来、海外拠点がそれぞれ独自に新事業を作りだして欲しい。そして、もっと働く場所を作りだしてもらいたい」と言う。それぞれの海外拠点が地域に根ざし、地域に貢献してくれることを願っている。共に栄えることを目指す日本らしい海外展開のモデルになると思う。

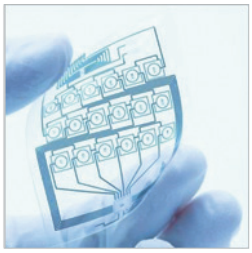


入居企業紹介
32

世界最先端のレーザー微細加工装置を日本へ

光 株式会社

C字型に穴加工


プリンタブルエレクトロニクス
On-the-fly 高速加工

出島主査・渡辺社長

光 株式会社（代表取締役　渡辺秋実氏）は、先端的なレーザー微細加工装置の輸入販売、保守、試作及び受託加工を主な事業としている。

SIC-3のラボには、この業界では最先端の装置「レーザー微細加工装置microSTRUCT」が設置されている。IR(1064nm), SHG(533nm), THG(355nm)の3波長を出力できるピコ秒レーザーが搭載され、お客様の試作の要請に応えている。金属、セラミクス、ガラス、樹脂など材料の種類を問わず、穴あけ、切断、マーキング等様々な加工が1台で可能。

同社が取り扱うピコ秒レーザーなどを用いたハイエンドなレーザー微細加工装置は、薄膜太陽電池、照明用有機EL、パワー半導体部品、自動車部品、精密機械部品、RFIDアンテナの他、医療器具、透明材料などにも幅広く応用されている。

渡辺社長は「世界最高性能のレーザー微細加工装置を、是非、体験していただきたい。課題と解決策はいつも個別的ですから、一つひとつ丁寧にそして迅速に対応することを心がけています。そして、日本国内での加工装置販売の難しさが増す中であっても、一般的な景況のせいにすることなく継続し続ける事が肝要（夢）です。」と語る。

＜主な取扱い装置＞

microSTRUCT vario	3ビームラインを装備することができ、psレーザーをはじめとした様々なレーザー光源を選択でき、加工材料が樹脂、セラミクス、金属などさまざまで切断や穴あけなど複数の加工が必要であっても、この装置1台で仕事をこなすことができる。
microFLEX	花開こうとしているプリンタブルエレクトロニクスに、高速・連続・大面積なレーザー微細加工で応える。樹脂や紙など柔軟な基材上の塗布膜にロール・トゥ・ロールでパターン加工するために開発された。モジュール・コンセプトが最大の特長である。フレキシブル基材への加工プロセスを自由に変更、拡張でき、文字通り"Flexible"な装置。
microDRILL	ふつうの順テーパーから逆テーパーまで、テーパー角を制御することができ、従来のレーザー加工穴を超える品質の穴加工を実現している。
microCUT	さまざまな材料のさまざまな切断の応用がある。Siウェファ、液晶ガラス基板・石英・水晶、アルミナや窒化アルミニウムなどのセラミクス、薄いNi箔、ヒートシンク用の銅等々である。共通するのは熱影響を材料基板に留めない加工の希求。
2014年新製品	薄膜太陽電池のレーザーパターニング3工程を1工程にするワンストップパターニング(Solar Award 2013受賞)、透過型電子顕微鏡(TEM)の観察試料のレーザー薄片、など続々

光 株式会社
SIC-3　3312
TEL : 042-707-4941 FAX : 042-707-4940
URL : http://www.hikalikk.jp/

HISTORY of SIC

証言で綴るSICの歴史

Sagamihara Incubation Center. Fuel Cell Laboratory
SIC燃料電池研究会
産学官連携体による、燃料電池事業化プロジェクト

～ SIC 燃料電池研究会～　（株）さがみはら産業創造センター 企画事業部　永井　直文

2002年後半。ITバブル崩壊、米国同時多発テロの影響世界経済は混迷、円高基調に株価も低迷、先行きが見えぬ状況であった。

当時40代半ばの私は、この不況下で経営不振の続く大手民間企業に管理職として在職し、悶々とした日々を送っていたところ、さがみはら産業創造センターに採用され、長年お世話になった企業を思い切って退職した。

きっかけは『産業創造』というこの名になぜか惹かれたのだ。

このころのSICは試行錯誤的な卵の事業の摸索期で、民間製造業技術系出身の私は、『産業創造』を念頭に、自分が保有する資源、知識や経験を活かした企業支援の仕組みを、インキュベーションマネジャー研修の経験をもとに考えつき、2004年度に情報通信系に関連する企業や大学の産学連携体として、SIC新技術創造研究会を設立させた。

この研究会は企業が成長するきっかけとなる開発テーマや大学研究者の知見などを提供し、3年間ほど活動した。

そのような中、この研究会という仕組みを飛躍させる事業として、2005年度から2年間、国の産業クラスターに基づく神奈川県の取組み、『燃料電池』をお題とした新産業創出拠点形成促進事業を受託し、燃料電池プロジェクトを開始した。関係者（企業、大学、SIC、産業技術センター、県、市等）によるワーキング・グループを立ち上げ、開発テーマの設定や企業向け啓発セミナー・シンポジウムなどを開催した。

このプロジェクト活動の歩みは以下のようになる。

● 2005年10月にSIC燃料電池研究会を設立、①燃料電池システム開発プロジェクト、②家庭用燃料電池システム周辺機器開発プロジェクトを開始し、2006～2009年にかけてＮＥＤＯの家庭用燃料電池（エネファーム）補機開発プロジェクトへ参画し、都市ガス等の燃料改質用ポンプや給湯用排熱凝縮熱交換器などを開発し商品化した。

● 2008年度には中小企業基盤整備機構による川上・川下ネットワーク構築事業、2009年度には研究会にとっては大事業となった経済産業省の低炭素社会に向けた技術開発・社会システム実証モデル事業に採択され、SIC低炭素プロジェクトとして、ＨＥＭＳの原型となる研究成果の実証や評価を実施した。

● 2010年度、新エネルギーとのハイブリッド化を目指し、SIC1号館屋上を創エネ・蓄エネ・省エネの実証フィールドとして展開し、2013年度も継続している。

今思い起こせばこの8年間にわたる燃料電池プロジェクトは、私のおこがましい例えで申し訳ないのだが、あの偉大なる音楽家の連携プロジェクト『The　Beatles』の1962年10月のレコードデビューから1970年4月までの活動、彼らの偉大なるロック史上最大功績アルバム「サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド」やアップル本社屋上でのルーフトップ・コンサート「ゲットバック・セッション」がダブって見えてくる。この例えは私が勝手に思い込んでいることなのでご勘弁頂きたいが、今後はこの研究会活動をベースに、今日本国がおかれている脱原発、エネルギー問題や地球温暖化環境問題などに貢献できうるような新産業の創出と企業支援策構築にチャレンジして行く。

詳しくは、SICホームページをご覧ください。

慶福楼　山本のめしやレポート

今回から相模原の美味しいお店を紹介していきます。
2013年も残り2か月、忘年会の計画は進んでいますか。
ぜひ今年お薦めしたいのが、橋本駅徒歩５分にある中華料理「慶福楼」。
熱心な料理長は、今年も斬新なメニューで皆様に本格中華をお届けします。
食材の良さを楽しめる見事な味付けは絶品。食べる価値あり。
宴会コース料理は3000円（税抜）から。
ランチも日替わりや麺類等のセットメニューがあり、飲茶も好評です。
メニューにない料理も作ってくれます。気軽に相談してください。
場所　相模原市緑区橋本6-26-4　電話　042-775-6568
ホームページ　http://keifukuro.jp/

新メニュー：串炸里脊（ヒレ肉の揚げ物）

新メニュー：賽螃蟹（卵の白身と蟹肉の炒め）

中華風サラダ
（特別に作ってもらいました）

The HINT10 SICミニセミナー

「試算表は、ここだけ押さえろ！！」

日付：平成25年11月20日（火）14:00-15:30
対象：SIC入居企業及び相模原市内の企業
費用：無料　　定員：20名（社）程度
会場：さがみはら産業創造センターSIC-2会議室

モチベーションUPセミナー＆パフォーマンスUPセミナー全3回
日時：平成25年12月2日（月）、10日（火）、平成26年1月15日（水）
会場：ユニコムプラザさがみはら
定員：30名（先着順）　　受講料：10,000円／一人（税込）

子どもワークショップ　第5回
「科学研究所を見学＆わくわく入浴剤作り」

最新鋭の設備を備えた科学研究所で、見学と科学体験をした後、わくわくする仕掛け入りの入浴剤を作ります。
日時：平成25年12月14日（土）9：30～12：30
会場：さがみはら産業創造センター　SIC-3　3F食堂
定員：親子10組　　参加費用：1,000円／一人

2013.11- SIC EVENT CALENDER イベントカレンダー

- 11月20日（水）The HINT10（ＳＩＣミニセミナー）＆個別相談会
- 11月27日（水）南西フォーラム分科会　ロボット分科会
- 12月14日（土）子どもワークショップ第5回
- 12月 2日（月）・10日（火）・H26年1月15日（水）全3回 女性向け・仕事力アップセミナー
- 12月 5日（木）第27回　南西フォーラム
- 12月28日（土）～平成26年1月5日（日）　SIC年末年始のお休み

knock! knock! 入居企業を募集してます。

SIC 空室情報（11月1日現在）　SICまでお気軽にお問合せください。

	部屋	空室数	賃料(月額)※
SIC-1	スモールオフィスA（23.6㎡）	2	78,700円
	スモールオフィスB（17.3㎡）	1	64,200円
SIC-2	オフィス（50.2㎡）	2	172,700円
SIC-3	オフィスB（21㎡）	1	46,200円

※賃料・共益費込み（税別）

SIC事業の報告

子どもワークショップ
第2回「音のセンサーで走る！オリジナルマイカー」

平成25年8月24日（土）6組12名が参加。ワークショップ前半では、基板に抵抗やコンデンサなどを挿して、音に反応して走るオリジナルマイカー制作を行いました。後半は、制作したオリジナルマイカーを走らせてレースを行いました。

第3回：『日本一のヘアゴム工場！ミサンガ＆ストラップ』

平成25年9月14日（土）　8組16名が参加。手芸ということもあり、第1回目に続いてほとんどが女性のワークショップとなりました。今回は、これまでの2回とは趣向を変え、緑区鳥屋にある株式会社イノウエをワークショップ会場としてお借りし、工場見学した後、ミサンガやストラップを手作りするという一味違ったワークショップです。

第14回経営者セミナー

「シリコンバレーから見た日本型ベンチャーの成長戦略」平成25年9月24日（火）町田新産業創造センターにて開催。当日は参加者90名、懇親会は45名の方々にご参加いただきました。講師の曽我弘様は20年にわたるシリコンバレーでの起業と経営のご経験に裏付けられたビジネスセオリーを、成功談・失敗談を交えてご講演頂きました。

SICアントレ・インターンシップ

今年5月から始まった第10期インターンシップは、10月4日（金）13名が修了証を手にしました。後日「得られたこと、感想、自分自身の気持ち、次の11期生へのメッセージ」をホームページへ掲載予定です。

第4回創・蓄・省エネフォーラム

10月22日（火）サン・エールさがみはらにて開催。神奈川工科大学の一色正男教授、森武昭副学長、マイクロモジュールテクノロジー（株）、（株）エフェクトの取り組みについてご講演いただきました。当日の参加者は40名。「最先端技術の講和を聞けた」「次回も参加したい」等好評でした。

編集後記

10月、第10期SICアントレ・インターンシップの修了式が行われました。今年は、13名が修了証を手にしています。昨年までの修了者は94名でした。発表します！修了証No.100のインターンシップ生は、岡村春香さんです。桜美林大学リベラルアーツ学群ビジネスエコノミクス専攻3年の岡村さんは、何と！子どもアントレとジュニアアントレを経験していました。教えてもらう立場から、教える立場に立つことが出来たことは、彼女の想いと関わる全ての継続の力だと思いました。嬉しいですね。

さて、次回は、平成26年、新しい年での発行です。皆様、良いお年をお迎えください！

SAGAMIHARA INCUBATION CENTER
（株）さがみはら産業創造センター（SIC）
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077
E-mail: koho@sic-sagamihara.jp
ご意見・ご感想をお待ちしています。
ウェブサイト http://www.sic-sagamihara.jp/

デザイン TRIAND Inc.